

安全対策連絡協議会

平成30年6月8日
在ハンブルク日本国総領事館

1 2017年中の北ドイツ4州における犯罪発生状況

各州とも、前年と比べて総犯罪件数は減少しましたが、性犯罪、薬物犯罪の発生件数が増加しています。また、「すり」、「置引き」、「空き巣」等の窃盗事件は依然として多発しており、邦人の被害も見られますので、注意してください。

	ハンブルク	シュレスヴィヒ・ホルシュタイン	ブレーメン	ニーダーザクセン
総犯罪件数	225,947 (-5.6%)	188,979 (-8.5%)	81,176 (-11.7%)	526,120 (-6.4%)
殺人	30 (+100.0%)	15 (-11.8%)	11 (-21.4%)	154 (-8.9%)
強盗	2,200 (-10.1%)	1,359 (-2.9%)	1,044 (-10.1%)	3,434 (-8.4%)
窃盗	106,591 (-9.1%)	76,463 (-8.6%)	36,566 (-17.1%)	183,166 (-11.1%)
性犯罪	1,642 (+13.5%)	2,154 (+21.5%)	650 (+13.4%)	5,226 (+10.0%)
薬物犯罪	10,586 (+1.0%)	9,371 (+13.9%)	4,004 (+26.1%)	34,760 (+9.4%)

なお、本年に入りナイフ等の凶器を用いた犯罪が多く見られますので、強盗事件や傷害事件に巻き込まれないように特に注意してください。

- 目立たない。高価な金品を身につけて歩かない。
犯罪者から標的とされないように「目立たない服装」を心がけることが大切です。高価な金品を身につけて歩いていると、犯罪者の格好の標的となることを認識しましょう。
- 夜間に一人歩きをしない。
今の時期は日照時間が長く、夜間でも比較的明るいですが、夜間から深夜帯にかけて犯罪のリスクが高まります。夜間の一人歩きは避け、複数人での行動やタクシーの利用を心がけましょう。
- 夜間に人通りの少ない路地裏、駅を歩かない。
夜間から深夜帯にかけて、人通りの少ない路地裏や駅も犯罪のリスクが高まります。特に中央駅や歓楽街近辺の路地裏は、犯罪の危険スポットとなりますので、人通りのある大通りやタクシーの利用を心がけましょう。

2 テロ情勢について

- (1) 本年は5/15(火)～6/17(日)頃までがイスラム教のラマダン及びラマダン明けの祭り(イード)の期間となりますが、近年、ラマダン月及びその前後の期間に世界中で多数のテロ事件が発生しており、特に注意が必要です。

欧州におけるラマダン月及びその前後に発生したテロ事件

年月日	国(都市)	内容
2018年5月29日	ベルギー(リエージュ)	市中心部での拳銃等使用テロ事件
5月12日	フランス(パリ)	オペラ座付近での刃物使用テロ事件
2017年6月20日	ベルギー(ブリュッセル)	ブリュッセル駅構内での爆発テロ事件
6月20日	フランス(パリ)	シャンゼリゼ通りでの憲兵隊への車両突入テロ事件
6月6日	フランス(パリ)	ノートルダム大聖堂前での警察官襲撃テロ事件
6月3日	英国(ロンドン)	ロンドン橋での車両突入・刃物使用テロ事件
5月22日	英国(マンチェスター)	コンサート会場での自爆テロ事件
2016年7月24日	ドイツ(アンスバッハ)	野外音楽祭での爆弾テロ事件
7月18日	ドイツ(ヴュルツブルグ)	列車内での斧使用テロ事件
7月14日	フランス(ニス)	花火会場でのトラック突入テロ事件
6月13日	フランス(パリ)	パリ郊外での警察官刺殺テロ事件

- (2) テロの発生を予測することは困難ですが、普段の心がけや心構えによって、テロに巻き込まれるリスクを軽減し、万が一テロに巻き込まれた場合でも被害を最小限に抑えることができます。

- 外務省海外安全ホームページや渡航先の大使館・総領事館のホームページを活用し、渡航先の安全情報を収集し、テロの危険のある国・場所・期間・時間等を避けて行動する。
- テロの標的となりやすい場所を理解する(記念日等のイベント会場、観光施設、レストラン、ホテル、ショッピングモール、スーパーマーケットなど人が多く集まる施設。教会やモスク等の宗教関連施設、公共交通機関や軍・警察等の政府関係施設等)
- 渡航先で不測の事態が発生した場合に、最新情報の入手が可能となるように、在留届の提出または「たびレジ」の登録を必ず実施する。
- 海外安全アプリをスマートフォンにダウンロードしておく。

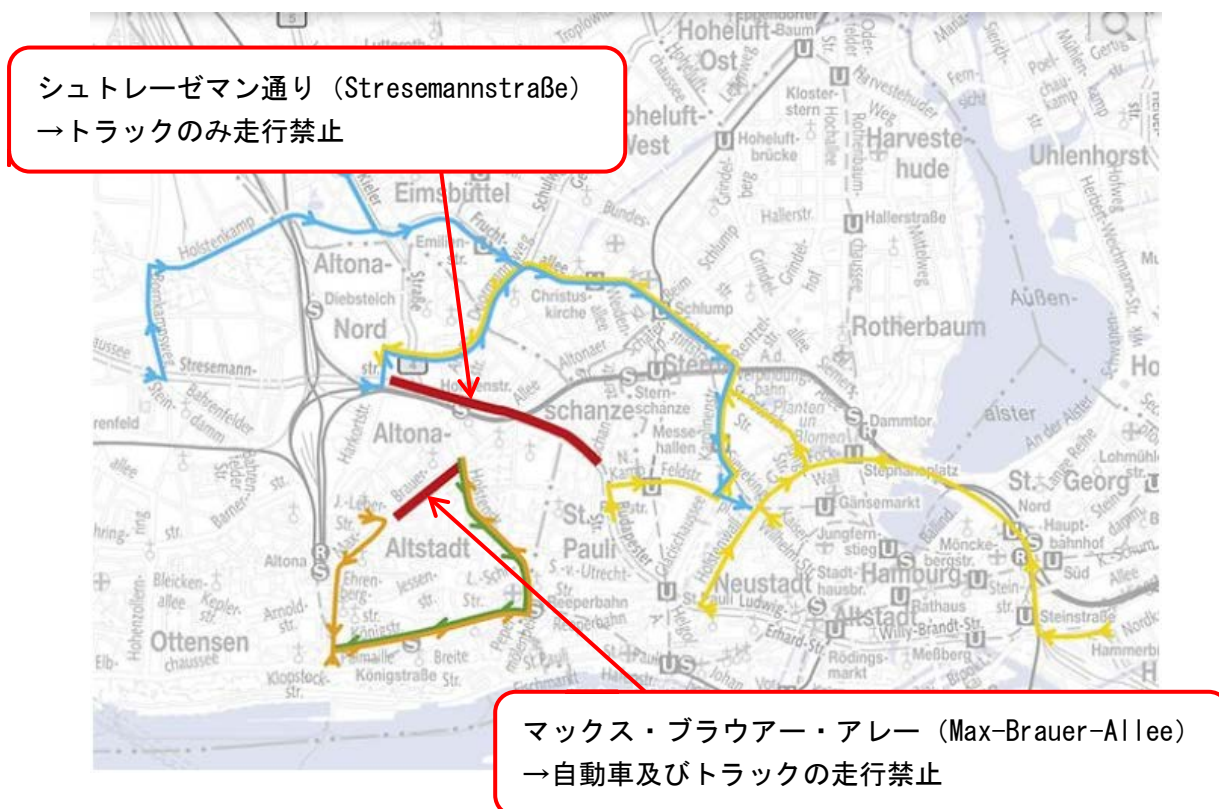
アプリのダウンロードはこちら



- 不審な人物や状況を察知したら、速やかにその場を離れ、自身の安全確保を最優先する。
- 爆発音や銃撃音を聞いたら、その場に伏せる。または頑丈な構造物に隠れる。
- 周囲の安全を確認し、可能であれば低い姿勢で銃撃音等のする現場から速やかに離れ、安全な場所に避難する。

3 ハンブルク市内の一部路線におけるディーゼル規制について

5/31（木）からハンブルク市内の一部の路線において、EUの最新排ガス規制基準の「ユーロ6」を満たさない旧式ディーゼル車（自動車及びトラック）の走行が禁止されておりますので、ご注意ください。



4 その他連絡事項

- (1) 3か月以上海外に滞在する方は在留届の提出を、3か月未満の場合は「たびレジ」の登録を必ず実施してください。渡航先の最新安全情報や、緊急時の大使館又は総領事館からの連絡を受け取ることができます。また、家族や友人、職場等に日程や渡航先での連絡先を伝えておくようにしてください。

「在留届」の提出：<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/>

「たびレジ」の登録：<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

- (2) ドイツ国外へご旅行の際にも、旅行先の在外公館から緊急連絡を受けられるようにするため、「たびレジ」のご登録を忘れずに実施してください。